

【凡例】

**会社名**(または刻印・煉瓦の仮称)


(印影)

(大阪窯業刻印を基準にしたおよその倍率)

A:工場所在地  
B:工場存続期間  
C:当該刻印使用時期  
D:刻印採取物件  
E:該物件所在地  
F:該物件建造年  
G:マッチング根拠  
H:特記事項  
※印影文字は似たフォントで代用したものがある。 ※出典略記は以下の通り。煉瓦史:水野信太郎『日本煉瓦史の研究』、集成:同『国内煉瓦刻印集成』(中部産業遺産研究会「産業遺産研究」第8号)、『年報』:泉南市埋蔵文化財センター年報H22版

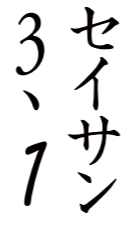
香川県

**西讃煉瓦株式会社**




A:香川県三豊郡観音寺村  
B:明治29年(1896)11月～明治35年頃(明治42年以前)  
G:新聞広告  
H:大阪毎日新聞M30.8.18.広告掲載の社章。釘を輪にしたような形象を2つ重ねる。同型印の検出/未検出は不明だが、別子銅山喜三谷社宅などで右に掲げる刻印煉瓦が見つかっており、これが西讃煉瓦の製品と考えられる。

**西讃煉瓦株式会社**



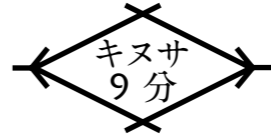
A:香川県三豊郡観音寺村  
B:明治29年(1896)11月～明治35年頃(明治42年以前)  
D:別子銅山東平索道基地貯鉱庫  
G:新聞広告  
H:別子銅山東平地区などで検出されている刻印。高橋幹「東平の煉瓦」(山村文化研究会『山村文化』第17号)参照。別子では他にもかなで「せいさん」と書かれた煉瓦も見つかっているという。

**讃岐煉瓦株式会社**




A:香川県豊田郡常磐村→観音寺市植田町  
B:明治30年(1897)6月～昭和末期に転業  
G:新聞広告  
H:大阪毎日新聞M30.10.3.広告に掲げられた社章。「讃」字を松葉菱で囲む。全く同じ印は見つかっていないが、ここから松葉菱印が始まったのは間違いない。同社は明治42年頃に西讃煉瓦を買収し観音寺分工場とした(その後本社機能も移転)。

**讃岐煉瓦株式会社**



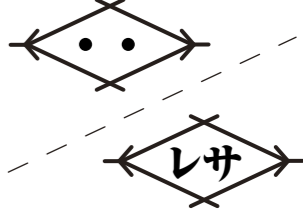
D:別子銅山東平索道貯鉱庫、旧別子地区  
F:明治42年以降?  
H:旧別子地区醸造所遺構など、別子銅山の各所で検出される讃岐煉瓦刻印。左書きの「サヌキ」の文字に英数字・漢数字の添印が付される。添印には「分」の文字を冠したのもあり、讃岐煉瓦分工場で製造されたもの(明治42年以降製造)と思われる。

**讃岐煉瓦株式会社**



D:東平地区第三通洞変電所中庭、広島県物産館、大阪市北区中崎町花壇ほか  
F:明治末～大正初期?  
G:文献等  
H:広島原爆ドーム(旧県立物産館:T4竣工)等で検出されている「松葉菱+数字」タイプ。別子銅山では第三通洞変電所(明治42年竣工)の中庭などで検出されている。明治40年代以降に建造された構造物で検出されることが多いようだ。

**讃岐煉瓦株式会社**




D:端出場発電所水路脇転石、水路使用石  
F:明治42年(1909)  
H:第三通洞から端出場発電所へ水を引く水路に使われている刻印。中型の松葉菱に「・」が入る。また水路脇の転石で「サレ」文字入りのものを検出。「サ」ヌキ「レ」ンガの略と考えられる。同水路には何も内包しない松葉菱刻印も見られ、左書き「サヌキ」は見られない(大阪窯業、岸和田煉瓦、日本煉瓦等大阪の工場の製品は頻繁に見られる)。

**讃岐煉瓦?○特刻印**



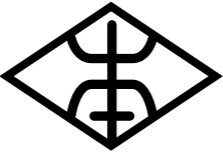
D:中崎町転石  
E:大阪市北区中崎町  
H:松葉菱のみの刻印に、丸で「特」を囲った刻印が添えられているもの。特製・特級の意か。呉鎮守府旧兵器支廠でも見つかっている(広島市郷土資料館調査報告書第16集『れんがと広島』p.34)。

**讃岐煉瓦株式会社**



D:中桜塚地区共同墓地  
E:大阪府豊中市中桜塚4-15  
F:昭和初期  
G:文献  
H:松葉菱に「サ」の文字を内包する印はJISサイズの煉瓦に押されていることが多く、戦後の製品と考えられる。中桜塚共同墓地も昭和初期に整備されたものである。

**竹本煉瓦製造所**




A:丸亀市船頭町(地方町)  
B:大正5年(1916)6月～同9年2月?  
H:『大日本商工録』第2輯に社章掲載。『香川県統計書』大正5年版では製造高700,000個とあり比較的盛んに製造したものと思われる。工場主・竹本勢一は後年丸亀市に創業した丸亀煉瓦(株)の代表者。

**丸亀煉瓦株式会社**




A:丸亀市地方町  
B:大正9年(1920)2月～同15年頃  
H:『窯業銘鑑』大正13年版に社章掲載。広島県呉鎮守府建物、旧陸軍宇品糧秣庫、旧広島電燈亀山発電所、芸予要塞などで見つかっている「亀甲+カナ」印の使用社と想像されるが、上記構造物はいずれも明治期のものであり疑いの余地はある。各検出例要検討(『街のいろはレンガ色』『れんがと広島』)

**「亀甲+カナ」刻印**



D:奈良県王寺町転石  
H:関西地方では王寺町で「亀甲+ヒ」の検出例がある。また尼崎市では亀甲型(凹のみ)が1例見つかっている。


**香川県監獄署跡出土刻印**



A:高松市西の丸町  
B:明治30年(1897)～31年?  
D:高松城址発掘調査現場  
H:高松城址発掘調査現場(旧・香川県監獄署陶芸工場跡)で出土した煉瓦刻印。同監獄の作陶指導は理兵衛焼窯元・10代理平が行なったとされ、同窯が高松藩主に使用を許可された「破風高」印との類似が指摘されている(佐藤竜馬「煉瓦生産と建造物—香川県を中心に」、『考古学ジャーナル』No.569)。なお明治33年まで指導と記録にあるが同31年に監獄署は移転しているとのこと。


愛媛県

**「いよみつ」刻印**




D:芸予要塞・下関要塞  
G:文献  
H:瀬戸内海の要塞施設で検出例がある刻印。「伊予三」と解して愛媛県三津浜町の三津浜煉瓦の使用印と推定されている。三津浜煉瓦はその前駆体が明治18年頃から操業していた節があり、また明治26年～34年頃には「伊予煉化石製造所」「伊予煉瓦合資会社」名義で製造した。三津浜煉瓦製造所を名乗るのは明治35年以降、また大正2年に株式会社化。

**“○ト”刻印**



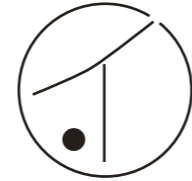
D:三津浜煉瓦工場跡、広島県呉鎮守府旧糧秣支廠宇品海岸倉庫、大阪府城東区貞徳舎工場壁  
H:三津浜煉瓦創業地とされる場所で見つかっている刻印(山村研究会『山村文化』第31号。右記三津浜煉瓦刻印の出土地とは別)。同じものが呉鎮守府倉庫(明治30～)や大阪府貞徳舎壁(明治24頃)でも検出されている。明治中期にはすでに瀬戸内圏で煉瓦流通があったことを物語る刻印である。

**三津浜煉瓦**



A:愛媛県温泉郡古三津町  
B:明治18年創業～明治31年(1998)4月三津浜煉瓦製造所と改名～大正2年(1913)9月株式会社～昭和30年代後半  
D:花壇緑石  
E:大阪市東淀川区十三東  
G:文献  
H:典拠は山村研究会『山村文化』第31号。古老聞き取りで同社のものという証言が得られている。十三に見られるものは機械成形煉瓦に径2cmほどの大きさで打刻。播州煉瓦合同刻印と類似。

**“①”刻印**



D:愛媛県新居浜市坂井町転石  
E:新居浜市坂井町1  
H:路傍転石採取。JIS煉瓦に直径3.3cmほどの大きさの“①”を打刻。あるいは手書きかも知れない。該煉瓦の長手には“”字も刻まれる。やはり打刻なのか手書きなのか判断しづらい刻みである(溝がV字型ではなくL字型をしている)。

愛媛県  
【耐火】

**伊予窯業(株)断熱煉瓦?**

C-1  
IYO-RITE

A:愛媛県伊予郡灘町355(伊予市灘町)  
C:昭和30年(1955)～45年頃  
D:尼崎市潮江路傍転石  
H:「IYO-RITE」と「C-1」の文字。伊予窯業の製品か。「C-1」は耐火断熱れんがの規格(C類の1)を示す表記で、圧縮さの規定を設けた耐火断熱煉瓦を示す。炉の迫受や壁下部、振動を受ける場所などに用いられる断熱煉瓦である。

# 【凡例】

- 刻印印影(右上英字は確定)  
 A: 確定 (社名・番号で別冊誌、文献等の裏付がある)  
 B: ほぼ確定 (社名・番号で別冊誌) (別冊誌の中身が異なるなどから推定)  
 C: 推定 (別冊誌により肯定される可能性あり)  
 D: 仮定 (別冊誌により肯定される可能性あり)

同じ所在地で所有社・社名の変更があった場合「→」で列記

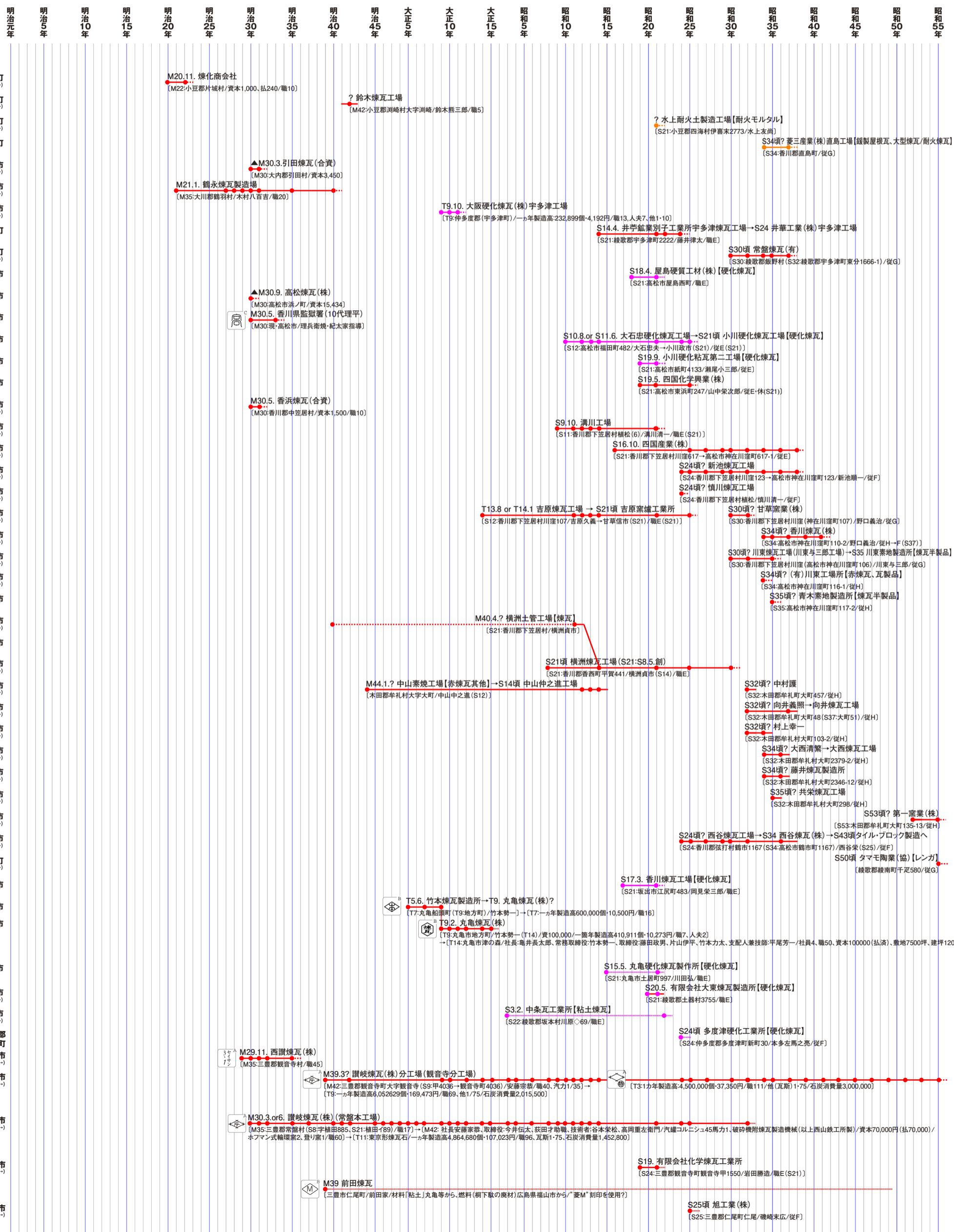
**M30.3.or6. 讃岐煉瓦(株) (常盤本工場)**  
 (M35:三豊郡常盤村(S8:字植田885、S21:植田189)/職17)→(M42:社長安藤家恭、取締役:今村ホフマン式輪環窯2、登り窯1/職60)→(T11:東京形煉瓦石/一ヵ年製造高4,864,680個・107,023円)

時点:所在地(旧市町村名)/社長・代表者/工場規模

●は文献で操業が確認できた年度を示す  
 赤は普通・化粧煉瓦、オレンジは耐火・耐酸煉瓦類、桃はその他。破線は操業状況が不明or別業で操業

※創業年は資料によって異なる。信憑性の高いものを恣意的に採用した。  
 ※会社名×は設立だけで実稼働しなかったと思われる会社(職工数の登録がないなど)。▲は販売会社。  
 ※刻印印影は2019年5月現在における推定。データの蓄積により訂正される可能性あり。更新版は  
<http://bdb.kyudou.org/documents/factorylists/> にて配布。

【データ出典】工場通覧(明治40年12月、明治42年12月、大正8年10月、大正10年11月、昭和4年、昭和7年7月、昭和9年9月、昭和10年(窯業・印刷製本編)、昭和22、24、25、27、29、31、33、35、39、41、43、45、47、49年)、大日本商工録(第1輯:大正7-8年、昭和6年)、日本工業要鑑(第12、14、16、17、19、27版)、香川県統計書(明治22、27、28、29、30、31、32、40、41、42、43、44、大正1、2、3、4、5、6、7、9、10、11)、佐藤竜馬「煉瓦生産と建造物—香川県を中心に—」



香川県下煉瓦工場の消長



